

1. 合理性や意識を中心とした近代の人間観を批判して、非合理性や無意識に注目することによって生まれた新しい心理学。精神分析学につながる。 1
2. **PERSON** 19・20世紀、オーストリアの心理学者・精神医学者。無意識の存在を明らかにし、自由連想法や夢判断などの手法による精神分析の創始者。 2
3. フロイトが研究した、欲求不満による不安や緊張から自我を守るための自動的な心の働き。 3
4. フロイトの「心の三層構造」の一つで、無意識にある本能的な欲求。 4
5. フロイトの説く「心の三層構造」の一つ、イド（エス）のエネルギー源で性の衝動。エロスのことであり、タナトス（死の本能）と表裏一体の生の本能。 5
6. フロイトの「心の三層構造」の一つで、意識（他者と区別）された自己。「現実原則」により、イド（エス）とスーパーエゴを調整。自己中心的。 6
7. フロイトの「心の三層構造」の一つで、嫉や経験で育つ道徳心。自我を監督する良識。社会的。ただしこれが強すぎると、フラストレーションを無意識下に抑圧し、不適応の原因となることもある。 7
8. 男の子どもが、無意識の領域で異性の母を愛し、同性の父を憎む傾向。女の子どもはその逆で、エレクトラ＝コンプレックス。フロイトの造語。 8
9. **PERSON** 20世紀、スイスの心理学者・精神医学者。言語連想法などの手法を駆使。フロイトの弟子となるが、性理論を批判して決別。集合的無意識や元型（アーキタイプ）など、独自の分析心理学を創始。 9
10. ユングが、仏教や道教、ヒンドゥー教などの体験を通して発見した、全ての人間が共有する元型（アーキタイプ）が存在する無意識。フロイトは個人的無意識しか認めなかった。 10
11. ユングが発見した集団的無意識に存在する型（タイプ）で、全ての人間が共有するもの。様々な神話や芸術などに共通して現れる。 11
12. ユング心理学の元型の一つ。男性の心に住む女性の魂（と女性の心に住む男性の魂）。 12
13. ユング心理学の元型の一つ。母親のように全てを包み込むと同時に全てを飲み込んでしまう存在。 13
14. ユング心理学の元型の一つ。自分につきまとう、もう一人の自分。光（外に表現された自分）に対する影（隠された自分）。 14
15. ユングが、心的エネルギーの向かう方向性により人間を類型化したもので、内に向かうタイプ。慎重で熟考型だが実行力不足など。 15
16. ユングが、心的エネルギーの向かう方向性により人間を類型化したもので、外に向かうタイプ。社交的で活動的だが移り気など。 16

T. Q. 「フロイトとユングの相違点とは？」

T. A.

フロイトは無意識の存在を発見し、心の三層構造（イド・エゴ・スーパーエゴ）を明らかにした。ユングは無意識のさらなる奥底に集合的無意識を発見し、そこには全ての人間が共有する元型（アーキタイプ）が存在するとしたことや、フロイトの「リビドー＝性愛」を否定した。